



# SSKS 療育ねっとわーく川崎

2020年10月20日発行  
No.234 (4000部)  
NPO法人  
療育ねっとわーく川崎  
発行者 江川 文誠  
編集者 谷 みどり

(3) 医療的ケアが必要な方々の避難は、別立てで考えていくと、行政は考えている様です(電源の確保や医療機関との連携の必要性等)。その重要性に関し

きたいです。

指定避難所と云えば、学校というこ

とではなく、より身近な地域の資源を

利用しての避難所開設を考えている様

です。↓具体化に向け、声をあげてい

きたいです。

(2) 分散避難を推奨している。

川崎市全ての指定避難所に、避難

所での配慮が必要な方のスペースを確

保することが決まりました。簡易的な

ものではなく、教室等を用意するとの

ことです。

(1) 指定避難所に「要配慮スペース」

が作られる。

A..療育ねっとわーく川崎(防災委員

会)として、今、捉えている情報や動

向等をお話することで、お答えに代

えさせていただきます。

Q..車いすに乗っていま

すが、災害時は、どのよ

うに避難すればよいので

しょうか?福祉避難所の

詳細は知らされておらず、

避難所まで行く方法も目

処がつかえません。障害の

ある人が、災害時に助か

る方法が知りたいです。



全国的に、障害福祉サービスを利用

(6) 「災害時計画」を、ひとりひとり

に作成する必要があります。

は、被災後できるだけ早く、安否確認

のため、関係者が駆け付けけるとい

う、独自システムを作成中です。しかし、

まだこのシステムにより、支援できる

方の数は、少数ではありません。法

人として、このシステムの完成度を高

めていきます。

ては、認識は一致してきていますが、

今一つ具体的なものはなっています

ん。

(4) 福祉避難所の課題に関しては、認

識されている様ですが、今だ、具体的

な方策は出されていません。↓これも

さらに訴えていきたいです。

(5) 療育ねっとわーく川崎では、「災

害時要支援者マップ」を作成中です。

私たちの法人のサービスを利用され

ている方々の中で、災害時の支援が特

に必要だと思える方々をリストアップ

させていただき、台風等、前もって対

策が立てられる場合は、個別の対策・

対応を決めておいたり、地震の場合等

は、被災後できるだけ早く、安否確認

のため、関係者が駆け付けけるとい

う、独自システムを作成中です。しかし、

まだこのシステムにより、支援できる

方の数は、少数ではありません。法

人として、このシステムの完成度を高

めていきます。

している方は、ひとりひとりにサービ

ス等利用計画という個別のプランを作

成しなればならないことをご存じで

しょうか? この計画の中に、災害時

計画を加えることはできないでしょ

うか。この計画に、災害時の対策、対応

方法を組み入れておくことで、具体的

行動の指針になると考えるのです。↓

考え方は、川崎市と一致していますが、

具体的なものにはなっていません。

(7) ひとりひとりが出来ることを、ま

ずしておきましょう。

地域の状況を、「ハザードマップ」等

で知っておくとか、防災グッズをそろ

えることなど、できることは、準備し

ておきましょう。

※はなはだ、具体性に欠ける部分が多

あり、歯がゆい思いをされたのではな

いでしょうか。

しかし、この状況下、見えてきたも

のがあります。今後は、個人、地域

行政、法人、各々が出来ることを整理

しながら、命を守る活動を一緒に続け

ていけたらと思います。

(五十嵐一明)

## 【ハンドブックこぼれ話】

豊かな地域療育を考える連絡会の「障がい児の子育てハンドブック★改訂版」はいつできるの?—2021年の春を予定しています。もともとは、この冬に必要な最小限の改訂を加えて出版する予定でしたが、調べていくうちに修正や追加をするべきことがたくさんあることがわかりました。来年度から、第5次ノーマライゼーションプランがスタートします。これから各地各所でパブリックコメントや住民説明会があります。それらを経て、新しい第五次ノーマライゼーションプランに基づき制度や仕組みが変わるものがあるのです。それらを反映した改訂版の方がより意味のあるハンドブックになる!という事で、出版まで今しばらくお待ちください。そして、改訂版では、新しいテーマの記事も掲載する予定です。今日はその一部をご紹介します。



### ■乳幼児検診について

現在、1歳半と3歳児検診は各区の保健センターで受けることになっています。それまでの検診は市内協力医療機関で行われます。こどもの発達が遅れていると感じているとき、あるいは病気が障がい、発達の遅れの可能性を指摘されたら、どうすればいいの?相談できる場所は?小児科の先生が乳幼児検診と、その後のフォロー体制についてわかりやすく解説してくれています。

### ■防災について

今まで、防災と言えば「地震」への備えが主でした。しかし、昨年の台風19号の被害に象徴されるように、「風水害」への備えが非常に重要で緊急の課題となっています。19号の経験から、改めて障がいのあるこどもとその家族の防災対策について考え、準備する必要があります。住んでいる場所、障がい特性、家族の状況などによって、ひとりひとりの防災対策は違います。今回はそれらを考えるヒントとなるような情報をお届けしたいと思っています。

### ■兄弟について

「きょうだい」とは、障がい児や病児の兄弟姉妹のことを言います。障がいのある子どもだけではなく、「きょうだい」のことも知って欲しい。今回はご自身も「きょうだい」の、全国障害者とともに歩む兄弟姉妹の会(全国きょうだいの会)、シブコト障害者のきょうだいのためのサイトのスタッフの方に記事を書いていただきました。

### ■相談支援について

第5次ノーマライゼーションプラン策定に伴い、障害者相談支援の仕組みが変わります。それに伴い、障がい児の相談支援や障がい児の支援も変わりそうです。今でも、相談支援の仕組みがよくわからない、どの相談をどこにすればいいのかわからないという声を耳にします。ハンドブックでは、できるだけわかりやすく相談について情報をお届けしたいと思います。現在鋭意取材中。みなさま楽しみにお待ちください!(七川)

会員・賛助会員募集

(連絡先) 〒214-0014 川崎市多摩区登戸2981 サポートセンター Rond  
Tel 044-930-0160 Fax 044-930-0128 e-mail: tani@rond.jp http://rond2981.jimdo.com/  
(会費振込先) 郵便振込 00280-2-26842 特定非営利活動法人療育ねっとわーく川崎  
■会費・賛助会費の別をお書きください。振込用紙が必要な方はお知らせ下さい。年会費 2500円 賛助会費 一口 1000円

### 今月号の目次

こんなときどうするの.....	1
国際福祉機器展について.....	2
川崎市の防災について.....	3
ハンドブックこぼれ話.....	4
「私の人生バラ色・パワーアップ」.....	6・7
「編集後記」.....	8
リフォーム工事とリフター導入.....	5
「防災研修報告」.....	6・7

(本誌5・6・7・8面は会員のみに郵送)



# 川崎市の防災について

のり せいどじょうほう  
紀さんの制度情報

去る9月30日（水）に、川崎市の防災体制について市の担当職員の方にお越しいただき、研修を行いました。

この研修に先立って、みなさんに障害児・者の当事者、関係者として、災害時に困ること、課題だと思ふことなどのアンケートを行い、たくさんのご意見を頂きました。アンケートの集計を見てみると、やはり私たち障害児・者等は避難したくても実際に避難するには困難な事柄が多く、避難したくてもあきらめてしまっている方が多い。というのが現状だということが、改めて浮き彫りになりました。

川崎市も、昨年台風19号の時の避難所の混乱は響いたようで、全体の防災体制について、見直しを始めているそうです。そんな中で、今回は防災担当の課とは別に、健康福祉局の中にも、防災に関することを担当する部署が出来て、総務企画局危機管理室と連携し、今後の防災体制について考えていくことになったということです。

このことは、今までの行政の体制から考えると、とても画期的なことで、福祉の声を汲み入れていただけることに、大きな期待を抱いております。同時に、今後他分野でも、同様の動きが広がっていくことを期待しております。

当日はさすがに、いきなり障害児・者等の課題について解決策が出る。ということではありませんでしたが、昨年台風19号を教訓に、具体策として何点かご提示を頂きました。

- ・指定避難所の教室を何室か要配慮スペースとして確保していく。
- ・現在は指定避難所は公立の小中学校となっているが、今後は高校等も含め、避難所の増設も考えている。
- ・現在の避難所には、エレベーターが設置されていない場所もあるので、エレベーターの設置を考えていく。

参加者の方達からは、具体的な困りごとや提案を、前述のアンケートとは別に、「生のこえ」として、市の職員の方達にお聞き頂きました。

市の危機管理室の職員方もおっしゃっていましたが、危機管理室の方達には、障害の特性など、個別の対応をどのようにすれば分からない。というのが今の現状ですが、健康福祉局の方も積極的に協力して頂ける体制が出来て、市としても今回のような「生のこえ」を聞く場を、今後も設けていきたい。とおっしゃってくださったので、私たちも積極的に「こえ」を発信していきましょう！

ノーマライゼーションの理念は非常時だからといって変わるわけではありません。私たちにはどんな時でも、「生きる」権利があるのですから。周囲の人たちと同じように、避難生活を送れなければおかしいのです。

# 国際福祉機器展について

新型コロナウイルスによってあらゆるイベントが中止になった2020年。例年9月に開催されている国際福祉機器展（HCR）もその一つです。今年のHCRは、開場となる東京ビッグサイトがオリパラ会期中にメディアアセンダーとして使われる計画だったため、10月の開催が予定されていました。ところが新型コロナウイルスの流行で中止が決定し、このまま取り止めかと思われましたが、今年はオンラインで開催されることになりました。

インターネットで視聴可能です。障害が理由だったり地方に住んでいて東京に出られなかったりなど様々な原因によって会場まで来られない人がいたことを考えると、インターネットでの公開は究極のバリエーションです。HCRのオンラインでの開催を記念して、今回は過去のHCRを振り返ってみたいと思います。今でも一番心に残っている展示が、「立てる電動車椅子」です。海外のメーカーが製造した電動でチルト&リクライニングが出来る車椅子で、背もたれや座面がそのまま変形して座っている人間を立ち上げさせてくれます。試乗が出来るとのことです。実際に体験してみましたが、足にある程度の負荷がかかるもののそのまますんなりと立つことが出来ました。立つことによつて、例えば人と会話するとき目線を合わせることで違和感なくコミュニケーションを取れるようになったり、立ち上がると下半身をはじめ全身にあえて負荷がかかることで健康に繋がったりするメリットがあります。

とはいえ、そんな立てる電動車椅子ですが、高性能なかわりに値段も重量も桁違いです。重量は約200kgで、福祉用車両のリフトに載せるのは不可能です。さらにここまで重量がある場合、本人やヘルパーの体重を考慮すると古いアパートや戸建て住宅では床が抜けてしまう恐れがあります。金額ははつきりとは覚えていませんが、数年前に聞いた際は300〜400万円台で、メーカーの担当者によれば公費で認められる場合はごく一部で基準がかなり厳しく、認可が下りても自己負担分が相当あるとのことでした。

HCR会場の東京ビッグサイトで、最寄り駅がりんかい線国際展示場駅のため、乗り換えで新宿駅を使う場合も多いかと思えます。実は新宿駅は車椅子で乗降介助を依頼する場所の難所で、JRの駅、それも大規模な駅は有人改札が混んでいる場合が多く、改札で駅員に介助を依頼するまでに時間がかかり、さらにその後実際にスロープを用意する駅員や警備員の到着まで、そして降車駅への連絡までに膨大な時間を費やすことがよくあります。しかし、HCR開催日は国際展示場駅ホームのエレベーター降りてすぐの場所に常時駅員が待機しており、新宿駅でも同じ降車口で同様の対応をしてみました。イベントで特別に対応するのは自然な流れですが、ふだんからある程度スムーズに案内してほしいと感じました。

こんな形で過去のHCRの様子を振り返ってみましたが、来年は早くコロナが収まってまた東京ビッグサイトで開催出来ることを願っています。  
（文・金子文俊）

